



パウダーを攻める植田氏

# 御嶽山



カッ飛ば陽介

2002 3/23-24  
御嶽山スキーツアー  
天候>雪・吹雪・曇り

メンバー  
大塚賢一  
植田敏昭  
石野美輝朗  
岸本陽介  
田代恵子

今回のツアーはシラビソ原生林のティンバーライン近くでテント設営し、次の日サブザックで山頂アタックし、テン場までの大滑降の計画をした。テントは石野氏のヒマラヤ使用の6人用ダンロップの冬季用である。

## 23日 曇り、雪、ガス

姫路を5時に出発、加古川で石野氏、大津で恵ちゃんと合流して現地入り12時過ぎ。天気予報では午後から好天に向かって明日には晴れ間が見れるとのこと。

山スキーを始めて以来の極上の膝上パウダーに酔いしれたツアーであった。  
しかし、リスクもあり昨年よりも視界悪く冷たく、覚明堂からは猛吹雪だったがスキーデポで山頂まで足を運んだ。

しかし、装備変更をしている間にも雪がちらほらと降ってきた。ゴンドラの片道切符を買ってアツという間に2150mに……。気温はガンと冷えて雪の降る量も多くなってきている。「今回のツアーはテントを張って晩餐会のみで終わりかなあ」、と思いつつシールを装着。

石野さん「ここに雨？がいるとちがうか？」、すかさず恵ちゃんは「私とちがうもんっ！」。そしたらダレなんや？・・・と、天候とは裏腹に笑顔の会話が弾む。

クリスマスツリーと化したシラビソ原生林帯を新雪を



クリスマスツリーの中をスタート

踏みしめて一歩一歩登っていき、2300 m地点に風をさえぎる格好のテン場を見つける。

早速に、陽介の新品スノーシャベルと私のピッケルシャベル、スノーソーで雪を馴らしテント設営に取りかかるが、その間にも雪が深々と降り続けているので全員雪だるまである。

植田さんは笑顔で「自衛隊の冬季訓練を思い出すなあ」と、恵ちゃんのために極上のホワイトトイレも作ってくれた。

14時半頃に全てが完成したので、足慣らしに一本滑ろうと、上のダケカンバのティンバーラインまでシールで雪とガスで視界の悪い中を2450 mまで登り詰める、ここから上は目標物がないのでホワイトアウト寸前である。

南方面を見るとガスの合間に金剛堂周辺に3張りのテントが確認できる。あそこは風をさえぎる物が無く沢と稜線からの吹き溜まりで大変だろう。

さあ、たかだか150 mほどの高低であるがウキウキで滑降の準備態勢に入る。なにせ25cm位のパウダーをなめ尽くし滑降

するのだから・・・。

私はいつものように一番手で極上のパウダーを食べ尽くし、みんなの勇姿をビデオに収める。

当然にそれぞれに言葉にもならない奇声を発しながら大喜びである。

アツという間にテン場に到着。もう一本行こうか、ではあるが時間も16時半を回っているので雪払いをして真っ赤なダンロップのテント内へ一人ずつ小さくなりながら晩再会に興じる。赤いテントは中も明るく狭いなりに快適である。

しかし、みんながガスを付けたらテント内の酸素が不足して入り口大開放である。外は雪が降り続けているのでベンチレーションが雪で塞がれないように開放しなければ大変である。後日新聞で読んだがこの日酸欠で遠見尾根でテント内で2人が亡くなったと書いてあった。

#### 24日 雪・ガス

5:00 起床

植田さんに起こされる。昨夜はマイナス7°にも関わらず夏



2400m, さあ今日一番の滑降だ!



パウダーをカッ飛ばす石野氏



テント設営完了



楽しい晩再会の始まりだ!



視界悪いがスタート



入念に地図・方向・高度確認



覚明堂までもう少しだっ、頑張れ！

用シュラフで爆睡していた。テント内は5人の吐息がこびりついて氷結している。

テント内から出ると雪は小降りだった、また薄青空が出て東方面にうっすらと中央アルプス連峰が見える。

これは今日はいいい天気になるぞっ！、と朝食を済ませてサブザックに必用具を詰め込んで山頂目指していざ出陣！・・・と、思いきややはり高度を稼ぐに連れて雪混じりで風も出てきて、おまけにガスも濃くなってだんだんと視界が悪くなって来る。入念に地図で方向を確認しながら進んでいくが、どうにもこうにも視界が悪い！、いつもならこのまま真西へ登り詰めて石室山荘で夏道と合流するのだが、ホワイトアウト寸前で目標物が無いので迷う危険性があり、ダケカンバのティンバーライン辺り 2550 mで南にトラバースして夏道稜線に取り付くことにする。目標物は一本のダケカンバである、トラバース中も足元がガスで見えにくく板が新雪で埋まっ

ているのでまともに動いているのか？と、錯覚する。

稜線にたどり着くと、金剛堂にキャンプを張っていた登山者が上から2人下りてきた。「覚明堂から先の稜線は非常に風が強いので大変ですよ」とのアドバイスをもらう。

石室山荘直下 2700 m辺りから降雪量も多く深いところでは膝まである、板を履いていてこれだから、先行パーティーの登山者は腰までのラッセルであろう。そんな先行者のトレースも強風で消されてしまっていてどこにあるのか確認出来ない。

気温は常にマイナス5°以下なのでこの新雪の表層雪崩は大丈夫だろうと、石室山荘 2800mから覚明堂2900mへは雪も深くジグを切って登っていく。

9:55 覚明堂に到着。金剛堂にキャンプを張っている他のパーティー年輩者10数人が急な雪壁をロープ無しで恐る恐る下りてきた(なんでこんな危ないところ降りるのや?)



覚明堂到着



無事下山を祈って鐘突く、陽介



猛吹雪の中を山頂着

ここからはスキーは風も強いので危険であるので、デポしてピッケル・アイゼンでカールをトラバースして山頂に詰める稜線に登る。石野氏と陽介がどうもアイゼンの調子が悪いようでだいぶ遅れている(ちゃんとシュミレートしておけよ)。

稜線からの山頂まではまともに風が襲ってくるのでみんな軽装備なので顔が痛そうだ。私はマスクとゴーグルで肌はすべて隠している。  
11:26 山頂の鳥居前でとりあえず記念写真。早々に覚明堂まで下る。

覚明堂からは植田氏に雪の状態確認のために2ターンほど決めてもらったがまあ心配は無い様子である。しかし視界は悪いため転げたら大変である。



パウダー恵子

さあ、大滑降の始まりである・・・膝までパウダーでまるでスノーサーフィンしてるようで雪の上をフワフワと浮遊しているようだ。さすがに陽介と植田氏はショートターンで格好良く決めている。

石室山荘直下で恵ちゃんが大転倒・・・心許ない所をビンディングで直撃し痛そう。

2700 m付近までくると、今日一番の山スキーパーティが登ってきた。「最高のパウダーですよっ」と疲れている体に勇気を与えてやる。

2550mの目標物までショートターンを決めつつ快適に飛ばす。石野氏は雪上暴走であやうく稜線からダイブしそうで尻制御。

13:03 トラバースも無事完了でダケカンバ帯をパウダーまき散らしアッという間にテント場到着。

このころになると晴れ間も覗き山日和りになってきたがまだ御嶽山の勇姿を見ることは出来ない。

テント撤収していると、2人の山スキーヤータイミングよく登って来てこの場所提供してくださいと言ってちゃっかり居座ってしまった(もっと雪遊びしろよ(^\_^))。

私は雪で湿った6人用テントを担いで陽介のスコップもくくりつけて両肩に食い込んだザックに振られながらのシラビソ帯の滑降は非常に疲れてしまった。

14:05 うるさいスキー場をカッ飛ばして駐車場に計画通りの時間に無事下山！



御嶽山の山の神に感謝！

PS.

悪天であったが、冷温のために極上のパウダーに出くわしたのには最高の気分であった。

余裕を持ってテント泊を決め込んでのツアーは充実し、滑降重視でサブザックで行動したのは正解だった。

2年連続で御嶽山の勇姿を見れなかったので今回は期待したいものである。

## 植田敏昭



最高のツアーに万歳！

3月23・24日と姫路 White Bardの皆さんに御嶽山の山スキーのお誘いを受け、はるばる出雲から参加することになった。久し振りの3000m峰に気合をいれて、前日姫路到着ビジネスホテルに投宿する。この日は岳友加藤さんと、久々の再会で美味しい酒を飲む。

翌日5時予定通り出発

し、加古川で石野さん、大津で田代さんと合流し、中央道を一路中津川ICをめざす。

岸本君の情報によると、23・24日と御嶽山は雪だという。私の見た、テレビの週間予報では、くもり～晴れだったのに・・・10時半中津川ICでおおりて、中山道を北上する。御嶽山は一度も姿を見せない。上松町あたりから雪がちらちらと舞い始めた。三岳村を過ぎたあたりから、時々激しく降りだす。岸本君の天気予報があたったようだ。11時45分おんたけロープウェイスキー場に到着。運転を担当してくれた、賢ちゃん・岸本君お疲れさまでした。

駐車場に車を入れて、登山準備。それほど激しい雪ではないがやむ気配はない。ロープウェイを利用していききに2150mまで高度をかせぐ。ロープウェイ終点では1mを越える積雪だ。

シール登行で約1時間、標高2300mのしらびそ原生林の中にテントを張る。雪はやむ気配はないが、テントはヒマラヤ登山でもよく使われる、ダンロップの6人用なので安心だ。中に入って行動食をとっ

たり、暖かい飲み物を飲んで休憩をしてから、一本滑りに行く。新雪は20cmを越えており森林限界を越えると、アイスバーンでシールのきかないところもある。ガスが深く視界はきかないが、南のほうに女人堂の影と数張のテントも見える。

標高2450m位から足慣らし。上部はアイスバーンと新雪のミックスで気が抜けないが、少し滑ると一面のパウダーでサイコー。雪が軽いのでみんな楽しそうだったが、すぐにテン場に着いてしまった。テントに入って晩餐会。みなさん出るわ出るわ、500m12本それに焼酎、するめ、マヨネーズまでかつぎあげた、つわものもいる。雪は全然やむ気配はない。トイレに出る人は必ず雪かきをしてテントが埋まるのを防ぐ。9時過ぎ酔いがまわって晩餐会を終了。

24日は5時起床だったが、誰もおきだす気配がないので、私が起きると皆も起き出して来たが、昨夜の飲み疲れか動



トイレも完成だ！



雪降る中スタート



アタックの成功を地蔵に祈っていざ出発

アタック成功を祈っていざ出陣！



20 数年ぶりの雪山に感激でしたと石野氏

作が少し緩慢なようだ。長老どうし私と石野さんは、もち・わかめ入りラーメンで朝食をすませ、行動水をつくって、外に出る。雪は小降りになっているが、ガスはまだ残っている。皆の準備ができたところで7時出発。

石室付近で上から降りてきた人に合う。女人堂にテントを張っていた人だったが「昨夜は強風と雪で一睡もできなかった」と言っていた。樹林帯の中にテントを張ったリーダーの判断は正解だったと思った。2700mを越えると30cm以上の積雪、下りでの雪崩れが心配になってくる。覚明堂で装備変更、10時スキーをデポしてピッケル・アイゼンで頂上を目指す。深いラッセルに苦勞して稜線に出るとすごい風

強風の山頂



背中も笑っているパウダー滑降

で、顔が痛い。手で顔を覆いながら前進11時半頂上到着。風強く、視界無し、写真をとって下山。

覚明堂からの滑降は雪崩れが心配だったので、最長老の自分がリーダーの許可を得て50m滑ってみる。雪崩れはなかったがホワイトア



良い経験をしましたと陽介と恵ちゃん

ウトでどこを滑っているのか判らず、おかしい感覚でまともなターンができない。2700mあたりからは視界も少しよくなり、岸本君がすばらしいターンをきめている。私も負けずに突っ込む。

メッチャ気持ちいい、今シーズン最高のパウダーを堪能する。9日の氷ノ山で、腐れ雪に苦勞した仲間達に、このパウダーを味あわせてやりたいと思った。

すぐにテン場についてテントを撤収し、行動食をとって下山。重くなった装備と、林間コースでは苦勞した人もいたようです。スキー場もすぐに降りて、今回のツアーを終了した。

この2日間一度も御嶽山の姿を見ることはなかったが、最高のパウダーを与えてくれた御嶽の自然と、御嶽ツアーに誘ってくれた White Bardの皆さんに感謝します。

[toshu@smn.enjoy.ne.jp](mailto:toshu@smn.enjoy.ne.jp) 植田敏昭



御嶽神社の鳥居はまだ2mの雪の中



Belg Heil